

# 相模原市車いす友の会（設立昭和 54 年 4 月）

会長 町田 克子

昭和 48 年、初代会長故松根一郎氏と車いす生活者 10 名ほどの仲間と相模原身体障がい者連合会（相身連）に入り行動開始。当初相身連の肢体部で活動した。

権利を主張する前に、障がい者としてではなく、一人の人間として社会の中で生きている意味をよく考え、『自活して税金を払うような人になろう』の精神で、昭和 54 年 4 月 50 名ほどの車いすを使用する会員で相模原市車いす友の会（当事者の会）を、肢体部から独立し、発足した。

昭和 54 年 1 月リフト付き送迎バスあじさい号誕生。会からの要望が受け入れられ自宅から外出できなかった車いす障がい者がドアツウドアで外出が出来るようになり、相模原公園での自然散策や宮ヶ瀬湖のバーベキューなどで車いすの多くの仲間と触れ合うことが出来、悩み事の相談や、生きる喜びを感じ、外出の楽しさを味わえるようになった。

昭和 56 年 4 月国際障害者年にあじさい会館落成。念願だった、障がい者を含め誰もが集う事が出来る活動場所があじさい会館とけやき会館内にオープン。車いすの会として手芸やカラオケ、手話教室などの勉強や、車いすバスケット、卓球などで仲間づくりが出来た。

みんなのトイレや、歩道と車道の段差の解消、駅構内のバリアフリー化の話し合い、災害時の避難場所での仮設トイレの要望など多くの問題を提起し、問題解決と理解を図ってきた。小中学校での福祉講話や体験談、障がい者作品展への出品などで市民との交流も行って来た。

平成 20 年相身連から独立、福祉制度も急速に変わり、制度上の制約もあり、会員も高齢化と自立行動も、し難くなったことで、会員数も減少。平成 25 年度から補助金を断り、会員の会費だけで行事を行っている。障がい者とダンスを楽しむ会の協力もあり、役員会、懇親会、日帰りの旅、一泊研修の旅、バーベキューなどの活動をし、同じ目線で、家族や健常者には判らない悩みや相談事を、会員同士気楽に話せる会として行動している。

初代会長；故松根一郎	昭和 54 年から	会員数	約 50 名
二代会長；故穂木克實	昭和 56 年から	会員数	約 50 名
三代会長；故船田 中	平成元年から	会員数	約 80 名
四代会長；故柴田俊昭	平成 5 年から	会員数	約 70 名
五代会長；町田克子	平成 14 年から	会員数	約 60 名
六代会長；岡田妃納子	平成 24 年から	会員数	約 30 名
七代会長；高本 涼	平成 28 年から	会員数	22 名
八代会長；町田克子	令和元年から		



桜まつり(障がい者とダンスを楽しむ会と)



ひたち海浜公園（一泊研修バスの旅）H30年5月



富士花鳥園（日帰りバスの旅）H30年9月